

市立

いちかわ

# 自然博物館だより

令和7年(2025年)

6-7月号

(通巻 218号)

2025年度

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

オオミズアオの幼虫

オオミズアオの幼虫が、クリの枝に  
さかさまにぶら下がって葉を食べて  
いる様子です。存在感がすごいです。

- P1 🌻 いきもの写真館  
オオミズアオの幼虫
- P2 🌻 長田谷津いきもの暦  
6月と7月の暦  
/ 3
- P4 🌻 花を透明にして観る  
スイカズラ
- P5 🌻 長田谷津のとりたち  
ハシブトガラス

- P6 🌻 くすのきのあるバス通りから  
ユリノキの花を見に行きました
- P6 🌻 ミニ解説 市川市域  
明治時代の流路
- P7 🌻 わたしの観察ノート  
3~4月ころの記録
- P8 🌻 ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当て、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

6月

ハンノキ林の宝石、ミドリシジミが見られるようになると梅雨入り直前です。梅雨入りしても長田谷津は活気に満ちています。雨の合間に足を運ぶと、湿地の至る所でオオシオカラトンボが飛び、チダケサシやタシロランなどこの時期特有の花が咲きます。

- 1日 オニスゲが咲いていました(2021)
- 2日 ハンノキ林の下草にミドリシジミがとまっていた。翅を広げると青緑色がとても綺麗でした(2018)
- 3日 斜面林からホトトギスの声が聞こえていました(2017)
- 4日 ムラサキシキブが咲き始めました。  
濃くなった緑のなかで、紫と黄色の花は鮮やかでした(2016)
- 5日 コモチマンネングサの星形の黄花があちこちで咲いていました(2016)
- 6日 オオマルバノホロシが紫色の花を咲かせる季節になりました(2015)
- 7日 斜面林からサンコウチョウの囀りが聞こえてきました(2020)  
ウキヤガラが咲き始めました(2015)
- 8日 草刈りをして開けた場所にギンヤンマの雄が来ていました(2018)
- 9日 クリの花にアカシジミが来ていました。  
ミドリシジミと一緒に花の蜜を吸っていました(2021)
- 10日 エコアップ池に真っ赤なショウジョウトンボのオスがいました(2022)
- 11日 マルタンヤンマが次々と羽化していて、羽化殻が日に日に増えています(2021)
- 12日 キビタキのオスがフクラスズメの幼虫を食べていました(2020)
- 13日 新しく作った田んぼにシマヘビが来ていました(2018)
- 14日 大池にカワセミの幼鳥が3羽来ていました。  
近くで繁殖したようです(2019)
- 15日 シダレヤナギにコムラサキとウチスズメの幼虫がついていました(2024)



ミドリシジミ



オオマルバノホロシ

- 16日 クヌギの木の樹液にノコギリクワガタのオスが来ていました(2020)  
ショウトンボが飛んでいました(2020)
- 17日 園路の脇でヒヨドリの親鳥が幼鳥に餌を与えていました(2018)
- 18日 エコアップ池にハイイロゲンゴロウがいました。  
飛来したものだと思われます(2021)
- 19日 未熟なアキアカネが何匹も止まっていた(2018)
- 20日 アカメガシワの花が満開で、スズグロシロチョウがたくさん集まっていた(2017)
- 21日 ハンゲショウが咲きだしました。  
開花に合わせて花の下葉が白くなりました(2015)
- 22日 チダケサシのピンク色の花が、ちょうど見ごろを迎えていました(2022)
- 23日 キハダカノコの発生が始まったようで、湿地のあちこちで姿を見かけました(2022)
- 24日 オオシオカラトンボは水辺で縄張りを守るオスの姿に加え、産卵するペアの姿が見られるようになりました(2015)
- 25日 ヒメギスが成虫になり、鳴き声が草むらの中から聞こえてきました(2021)
- 26日 大町門から入ってすぐの暗い林床でタシロランが咲いていました(2020)
- 27日 谷の上空をオニヤンマが飛んでいました。  
羽化が始まっているようです(2024)
- 28日 キビタキの幼鳥がいました。長田谷津で繁殖した可能性はとても高いと思います(2019)
- 29日 園路の柵に立派なミヤマカミキリがとまっていた(2021)
- 30日 斜面林からニイニイゼミの声が聞こえてきました(2017)



チダケサシ



オオシオカラトンボ

自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当て、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

7月

季節は移り、本格的な夏の訪れです。上旬は長田谷津のあちこちでオニヤンマの羽化が見られます。中旬はヘイケボタルの光で包まれ、ホタル観賞のお客様で賑やかです。昆虫に目が行きますが、ヤマユリやカラスウリなど魅力的な花も多い季節です。

- 1 日 上空を飛ぶツバメの群れに幼鳥が混じっていました(2018)
- 2 日 ヒグラシの声が聞こえてきました(2023)
- 3 日 斜面林の下の暗い場所でノシメトンボを見かけました(2022)
- 4 日 オニヤンマの羽化殻をずいぶん見るようになりました(2015)
- 5 日 常緑樹が茂る林縁で、タシロランが咲き始めました(2022)
- 6 日 ネムノキが一度きれいに咲いた後、中休みして、また満開になりました(2016)
- 7 日 湧水が流れる斜面で、ヤブミョウガがきれいに咲いていました(2023)
- 8 日 シダレヤナギでコムラサキの成虫をみつけました(2018)
- 9 日 ヤマユリがきれいに咲いて見ごろになりました(2023)
- 10 日 クリの木に大きなオオミズアオの終齢幼虫がいました(2022)
- 11 日 ヘイケボタルの光を確認しました。何ヶ所か集中的に光っている場所がありました(2018)
- 12 日 強烈な日差しの中、タマムシが飛んでいました(2023)
- 13 日 ニイニイゼミの声で包まれていました。樹皮にそっくりな見た目をしているので見つけるのは至難の業です(2021)
- 14 日 園路の擬木杭にシャチホコガの幼虫が止まっていた(2016)



オニヤンマの羽化



ヤマユリ



ヘイケボタル

- 15 日 昼過ぎの晴れ間に一斉にオニヤンマが飛び始め、谷の上空に 60 頭以上が飛んでいました(2019)
- 16 日 クヌギの樹液にカブトムシが集まっていました(2021)
- 17 日 フェンスに巻き付いているヤブガラシに、コスズメの幼虫がついていました(2024)
- 18 日 夜、バラ園の生け垣にはカラスウリの白い花がいくつも咲いていました(2015)
- 19 日 夕方、オニヤンマ、マルタンヤンマ、ヤブヤンマが黄昏飛翔を行っていました(2024)
- 20 日 可愛い子ダヌキがいました。今年も家族連れが住みついているようです(2018)
- 21 日 エコアップ池のジュズダマにクロコノマチョウの幼虫がついていました(2024)
- 22 日 湧水の水路で、オニヤンマのオスが行き来したり、枝に止まって休んだりしていました。産卵しているメスも見られました(2017)
- 23 日 ホトケドジョウの繁殖を想定して作った水辺で、幼魚が確認できました(2023)
- 24 日 お客様にヤママユの繭を教えてくださいました(2022)
- 25 日 カナムグラにキタテハの幼虫がいました(2024)
- 26 日 ホタル観賞会中にフクロウのゴロスケホーという声が聞こえました(2024)
- 27 日 アブラゼミの声が聞こえました(2019)
- 28 日 落ち葉に白いネットをかけてあるところに、どういうわけかハグロトンボが集まっていました(2019)
- 29 日 三角池でカワセミの幼鳥が大きなモツゴを食べていました(2018)
- 30 日 斜面林からツクツクボウシの鳴き声が聞こえてきました(2021)
- 31 日 ニオイタデが咲き出しました(2023)



ホトケドジョウの幼魚

花を透明にして観る\*\*\*\*\*

# スイカズラ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしましますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしましますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



スイカズラの花

- ・ラッパ型で、開口部は上下に分かれる（二唇形：にしんけい）
- ・上の花びらが大きく、よく目立つ。
- ・雄しべは5本。雌しべは1本。いずれも、花の外に飛び出している。
- ・「しべ」が花の外に飛び出す花は、チョウやガによる受粉を想定している。チョウやガは花の中にもぐりこまず外側から口を伸ばして蜜を吸うため、しべを外に出しておかないと、チョウやガの体に花粉を付けられない。ツツジなども同じ仕組み。

# 長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から  
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

## ハシブトガラス

ハシブトガラスは大型のスズメ目の鳥です。主にユーラシア大陸の東部に分布しています。日本では都市部から山地、農耕地までさまざまな環境に生息しています。よく似たハシボソガラスと、ひとくくりにされることも多いですが、いわゆる『カラス』と呼ばれる鳥です。日本人にとって最も身近な鳥の一種と言えるでしょう。

長田谷津では一年を通して、観察することができ、繁殖も確認されています。長田谷津のハシブトガラスは非常にしたたかです。来園者をしっかりと見ており、落としたゴミやゴミ箱を狙っています(写真 1)。また、荷物を置きっぱなしにしておくと、物色されることもあります(写真 2)。もちろんゴミや荷物を狙うだけではなく、湿地においてアメリカザリガニを捕らえたり、他の鳥の卵や雛を襲ったり(写真 3)、ヤマザクラの実を食べたりとさまざまな餌資源を得ています。



写真 1 ゴミ箱を物色するハシブトガラス  
(2020 年 3 月 5 日 長田谷津)



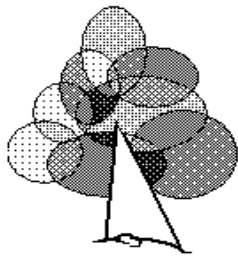
写真 2 湿地整備の作業中に、作業員の荷物を狙うハシブトガラス。  
(2025 年 3 月 11 日 長田谷津)

## カラスに追われる人

長田谷津では不思議なことにハシブトガラスが特定の人についていく現象を見ることができます。残念なことですが、野生生物への餌付けが禁止されている長田谷津で、いまだにカラスに餌をあげる人がいます。カラスは餌をもらったことを覚えていて、もらったことがある人が公園に入ると、ずっと頭上をついていくのです。皮肉なことに、隠れて餌をあげても、カラスの方から餌付けを行う人をこちらに教えてくれるのです。



写真 3 カルガモの卵をくわえる  
ハシブトガラス。  
(2025 年 5 月 18 日 長田谷津)



## ユリノキの花を見に行きました

4月18日、ナガミヒナゲシが、我が家の庭で咲きました。道路わきで見かけるものより、大きい株になりました。自然博の方が、「たくさん種ができるので、今のうちに、処分したほうがいい」と。茎を切ると白黄色の汁が…。23日、富貴島小学校の前で、マツの花粉が、水たまりの縁に、黄色い輪になっていました。5月3日、上野の東京国立博物館の、ユリノキの花を見に行きました。昨年、23日では、花が終わっていたので、早めました。目の高さの枝にも花が咲いていま

した。幹回りも太く、木全体に花が咲いて、見事でした。街路樹のユリノキは強く剪定され、花が高いところで咲いており、よく見えません。8日、大柏川調整池の辺りで、オオヨシキリが鳴いていました。15日、庭のカンゾウの仲間の葉裏に、クマバチがいました。よく、フジの花の周りで、ブンブン飛んでいるのは「怖いな」と思っていました。このクマバチはじっとしていたので、「黒い、黄色い、ふわふわ、大きい」と、観察ができました。気温が27℃の日もありました。

(M. M.)

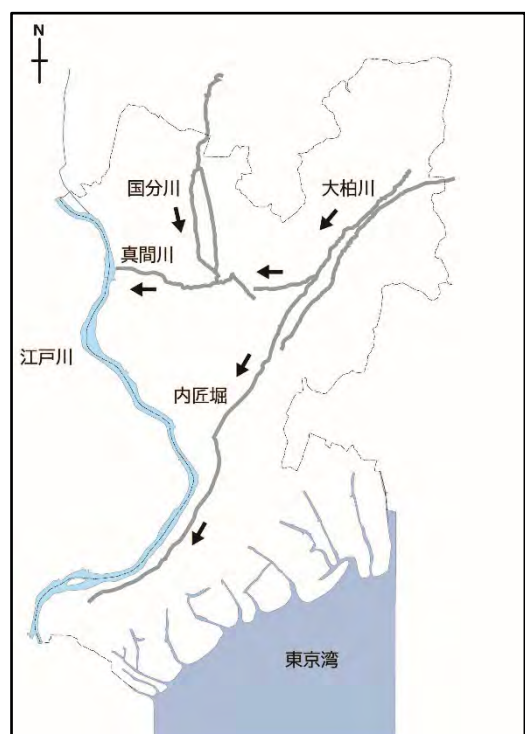
### No.2

## 市川市域

## 明治時代の流路

右の図は、明治13年の地図から、現在の真間川水系にあたる流路をグレーの線で抜き出したものです。このころは谷や低地はほとんどが水田だったので、地図にはもっと多くの水路が描かれ、実際も田んぼをつなぐ水路が網の目のようだったと思われます。川を線で表現する現代の感覚とは異なり、当時の水は面として動いていました（図中、流路が途切れているのは単に描写上の問題です）。

北東から大柏川が流れ、途中で西を向き、北から来る国分川を合わせ、真間川として江戸川へ注ぎます。また、大柏川は分岐して行徳・浦安方面に伸びます。これは「内匠堀（たくみぼり）」と呼ぶ、江戸時代からの用水路です。





#### ◆長田谷津より

- ・コブシが咲き始めました(3/6)。あいにくの雨模様で真冬の寒さでしたが、それでもうれしいものです。

金子謙一(自然博物館)

- ・もみじ山で体が青くなったホソミイトトンボを見つけました(4/15)。日当たりが良い場所にかたまっていて、5個体ほど見ることができました。

稲村優一(自然博物館)

- ・ホタルカズラがきれいに咲きそろいました(4/19)。オオイヌノフグリとは違う青色が目をはきました。

金子謙一

#### ◆大町動物園内より

- ・建物の壁に、クロナガアリのオスがいきました(3/28)。結婚飛行が行われたようです。
- ・ザリガニ釣り場でヤブニンジンが咲いていました(4/17)。ジロボウエンゴサクやタチツボスミレが目をはきますが、ひっそりと咲いているヤブニンジンもきれいです。

以上 稲村優一

#### ◆坂川旧河口より

- ・今春もノウルシが花を咲かせてくれました(3/27)。長くボランティアとして作業してくださっている方が整えてくれている場所では、春の花束のようにノウルシが群生して咲いていました。手入れをしていない場所では、他の植物に混じるようにして生えています。それはそれで、たくましい印象です。
- ・坂川旧河口には、雑種タンポポが出現する以前からある、カントウタンポポの小さな群落があります。今春も健在で、安心しました(4/24)。

#### ◆国府台緑地より

- ・センダイムシクイの声を聞きました(4/26)。キビタキと競演でした。ウグイスやシジュウカラも負けじとさえずっていました。

以上 金子謙一

#### ◆小塚山公園より

- ・成鳥2羽と子カルガモ10羽ほどの一家族と思われるカルガモが、小さな水路にいました(5/15)。どこから来たのかわかりません。周りは樹木が無く身を隠す場所がありません。カラスが地上にいます。心配です。

谷口浩之さん(北国分在住)

#### ◆真間山南側斜面林より

- ・ウグイスの鳴き声をききました(3/24)。崖の工事が続き、工事車両が入り、木が切られ気がかりでしたが、今年もきれいな鳴き声をきくことができホッとしています。

M. T. さん

#### ◆鬼高より

- ・小学校の小さな池にアズマヒキガエルが来ていました(3/7)。卵塊もありました。この池には、毎年、産卵に来ます。夕方には、鳴き声も聞こえるそうです。

#### ◆江戸川放水路より

- ・放水路の土手は、緑が増していました。片隅で咲いていたのはハマダイコンでした(3/13)。海に近い側、湾岸道路近くに多く生えています。

以上 金子謙一

3月は寒暖差が激しく、ぽかぽか陽気の次の日に雪が降りました。桜の花は入学式までもちました。4月は外歩きが楽しい晴天の日が多くありました。

## ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入力していただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



### ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



## ＜行事のご案内＞

長田谷津は、  
大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

### ○長田谷津散策会

（申し込み不要・荒天中止）  
季節の風景や動植物を楽しみながら、  
ゆっくりと散策します。  
集合：動物園券売所前 午前10時  
解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

### ○湿地の環境整備を

お手伝いしていただけますか  
（要問合せ・荒天中止）  
学芸員と一緒に環境整備作業を行います。  
たとえば…湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、  
水路の整備、など  
集合：観賞植物園 午前10時  
解散：集合と同じ場所で 正午

### 初参加の方は

・・・お電話で博物館までお問合せください。  
湿地の中に入る作業もありますので作業内容や  
身支度などについてご説明します。

|     | 長田谷津散策会 | 湿地環境整備            |
|-----|---------|-------------------|
| 6月  | 14日 土曜日 | 29日 日曜日           |
| 7月  | 13日 日曜日 | おやすみ              |
| 8月  | 9日 土曜日  | おやすみ              |
| 9月  | 21日 日曜日 | 28日 日曜日           |
| 10月 | 18日 土曜日 | 26日 日曜日           |
| 11月 | 16日 日曜日 | 23日 日曜日           |
| 12月 | 13日 土曜日 | 21日 日曜日           |
| 1月  | 18日 日曜日 | 25日 日曜日           |
| 2月  | 21日 土曜日 | おやすみ              |
| 3月  | 22日 日曜日 | 1日 日曜日<br>29日 日曜日 |

第38巻 第2号（通巻第218号）

令和7年6月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館  
（市川市教育委員会教育振興部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地  
☎047(339)0477